

## テュートリアル課題 胸に影

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/11814">http://hdl.handle.net/10470/11814</a>

2006年度

Block 2 テュートリアル課題

課題番号 5

胸 に 影



電断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください

TWMU Block 2 第一外科学 小山 邦広

影山一郎さんは、普段から、健康には自信がありました。2年ぶりに検診を受けました。

気軽な気持ちで検診を受けたところ、“胸部X線写真にて異常あり、精査が必要”との結果でした。たばこが好きでやめられなかったこともあり、心配になりました。

資料1：胸部X線写真（正常，症例- 正面，側面）

影山さんは東京女子医科大学病院呼吸器センターを受診しました。担当医から、「レントゲンで異常な影が認められるので、胸部 CT で、もう少し詳しく調べてみましょう。」と説明されました。

資料 2 : 胸部 CT (正常, 症例)

さらに、担当医から、「喀痰細胞診では異常な細胞は認めませんが、診断を確定させるため、気管支鏡で気管支を観察し、細胞を取る検査が必要です。」と説明を受けました。

後日、経気管支肺生検(TBLB)、擦過細胞診を施行しました。

また、他に、頭部 MRI, 腹部 CT, PET を予約しましたが、影山さんは、「肺の病気なのに、何で頭やお腹の検査をしなければならぬのだろうか？」と疑問に思いました。

資料 3 : 経気管支擦過細胞診(症例, 炎症例)

検査結果を聞きに受診すると、担当医から、「悪い細胞が認められるので、手術したほうがいいです。」と説明されました。

影山さんは、「手術しないで済む方法はないのですか?」と聞きましたが、「化学療法や放射線治療もありますが、手術でとるのが最も確実です。」と説明を受け、手術に同意しました。

呼吸器外科に入院後、左肺上葉切除術、リンパ節郭清術が行われました。術後は経過良好で第10病日に退院しました。

資料4：摘出病理標本写真(マクロ)、

資料5：摘出病理標本顕微鏡写真

病理検査の結果は、原発性肺癌でした。主治医からは、「組織学的に、リンパ節に転移しているので、少し進行しています。補助療法も考えています。」と説明されました。